

## 第2回 フランスの世代間同居への挑戦

■ひとつ屋根・ふたつ世代

個人主義の国として知られるヨーロッパのフランス。この国で、高齢者と学生の他人同士の「世代間同居」という脱・無縁社会に向けた新たな挑戦が始まっている。

きっかけは2003年の猛暑により全仏で1・5万人が死亡するという悲劇であった。犠牲者の多くが居老人だったことから、

一方、音大に通う20代の学生。パリのひとり暮らしはさびしく、高い家賃は悩みの種であった。

仲介機関のNPOを通じて始まった同居生活。二人は一日の出来事を語り合って、高齢者は学生のために献立を考えることが楽しみになり、孫のような青年が現れて大満足だ。

学生は家庭的な暮らしなか、高齢者の手伝いで役に立っている実感を得られている。

NPOの代表女性は語

「ひとつ屋根・ふたつ世代」という世代間同居政策が立てられた。

■成功の秘訣は「絆の契約」

NPOは高齢者と学生の信条・趣味・嗜好の徹底した事前調査を行う。また洗濯機やテレビの利用時

間などのルールが明文化さ

れている。

NPOの目利きで、単に

同居で家賃を浮かせたいと

いう意識だけの学生や、單

にヘルパーがほしいという

高齢者はお断りで、対等な

関係での同居がベースにな

っている。こうした取り組

みが成功の秘訣であり、昨

年ここで仲介した250組のうち95%が満足と回答

している。

NPOの代表女性は語

る。

「私たちの仕事は単なる不動産の仲介業ではありません。『絆の契約』です。この同居は、NPOや企業が仲介機関となり、高齢者と学生を結びつける。筆者がインタビューしたNPOが、今は順調ですが、今は順調です」

筆者は絆の契約という言葉に胸を打たれたが、これだけ覚悟を決めて真剣に取

う者同士で数度の面談を経て同居を開始し、同居時にNPOに仲介料を支払う。学生からの高齢者に払う家賃は図のように3タイプ

で、夕食を一緒にすると安くなるのが特徴だ。

り組む人が成功をもたらすのだ。

### ■日本への示唆

フランスでの世代間同居への挑戦

(1) 三方一両得の視点

世代間同居は、

①高齢者や学生の孤立、②オールドタウン化

③行政の見守りコストと市民・地域社会・行政の三

つの課題を同時に解決する方一両得だ。

(2) コミュニティビジネスの有望性

ニティビジネスは、対人サ

ービス市場としてフランス

で約5千億円の市場規模

で、脱・無縁社会での有望

産業である。

(3) ハード・ハイテク・

地域活性化は、ともすればハード・ハイテクの供給

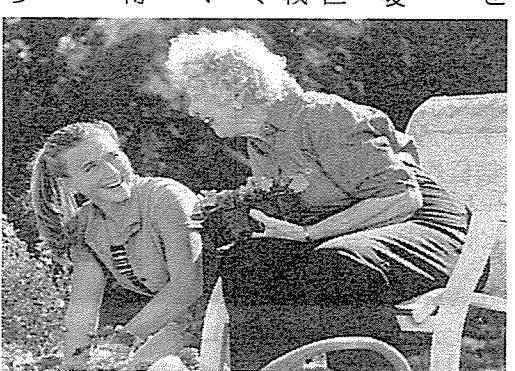
志向になるが、今回の事例のように、生活者の視点

での社会問題の解決が大切だ。

(4) 対処から予防の視点

独居老人問題が深刻化し

てからの後手後手の対応でなく、孤立させないための



▲世代間同居の紹介NPOのホームページより

### 世代間同居の契約形態

タイプ	概要
1 無料	週6日の一緒の夕食と夜間住宅が条件。
2 格安	週1日の一緒の夕食と夜間住宅が条件。 買い物支援なども契約条項に追加可能。
3 割引	部屋だけの提供。一緒の食事や夜間住宅条件なし。

高齢者と学生はNPOに登録料を支払い、条件の合

「2つの世代のアンサンブル」の事例を紹介しよう。筆者は絆の契約という言葉に胸を打たれたが、これだけ覚悟を決めて真剣に取

て、独立して育ったNPOが、今は順調でした

三菱総合研究所プラチナ  
社会研究センター  
松田智生主任研究員



慶應義塾大学法学部卒業。専門は新産業創造・組織活性化。2010年新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」立ち上げ。シルバーよりも上質なプラチナ社会・産業像を研究。松田氏のアドレス matsu@platinum.mri.co.jp  
プラチナ社会研究会アドレス ht tp://platinum.mri.co.jp/